



⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

TMX

XP500

4B5-28199-J2

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-5
環境・住民の方との調和のために	1-6

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
キーの取り扱い	3-1
イモビライザーシステム	3-2
メインスイッチ	3-2
警告灯と表示灯	3-3
スピードメーター	3-5
燃料計	3-5
水温計	3-6
マルチファンクション ディスプレイ	3-6
盗難警報器（オプション）	3-10
ハンドルスイッチ	3-10
リヤブレーキロックレバー	3-12
フューエルタンクキャップ	3-13
燃料	3-14
シート	3-15
可変式ライダーバックレスト	3-15
ヘルメットホルダー	3-16
書類入れ	3-17
トランク	3-17
バックミラー	3-19
ブレーキレバーの握り調整	3-19
スタンディングハンドル	3-20

サイドスタンド	3-20
イグニッションサーキット カットオフシステム	3-20

日常点検	4-1
日常点検の実施	4-1
日常点検箇所／点検内容	4-1

運転操作	5-1
エンジン始動	5-1
発進	5-2
加速と減速	5-2
ブレーキ	5-3
ならし運転	5-3
駐車	5-4

点検整備	6-1
点検整備の実施	6-1
サービスツール	6-2
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-5
チェーンドライブオイル	6-6
エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-7
低速、加速の状態の点検	6-7
冷却水	6-8
エアクリナーエレメントの交換	6-9
タイヤ	6-10
ブレーキレバーの遊び、 きき具合の点検	6-12
リヤブレーキロックのきき具合	6-12
ブレーキパッドの点検	6-12
ブレーキ液量の点検	6-13

ブレーキ液の補給	6-13
車体各部の給油脂状態の点検	6-14
バッテリー	6-15
ヒューズ交換	6-16
灯火装置および方向指示灯の 点検	6-18
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-19
こんなときは	6-19

お車の手入れ	7-1
洗車	7-1
キャストホイールの取り扱い	7-2
ウインドスクリーンの取り扱い	7-3
保管のしかた	7-3
アフターケア用品について	7-3

製品仕様	8-1
------------	-----

ユーザー情報	9-1
二輪車を廃棄する場合は？	9-1
サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-2
車両情報	9-2

JAU27280

JAU36416

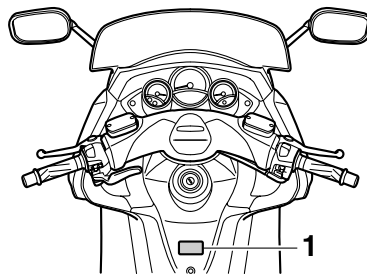
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適していま

安全運転のために

1

す。

- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - ・ 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - ・ 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。

- ・ ズボンのすそや袖口の広い服
- ・ 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ・ ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

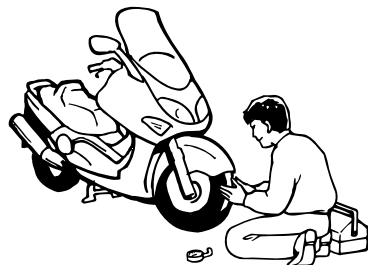
JWA11600

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う
事故や故障を防ぐため、法令で定められた日

常点検を運転する前に行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

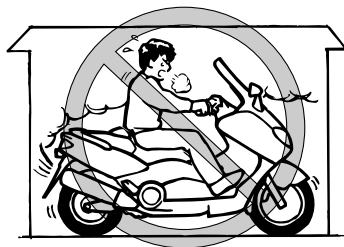
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



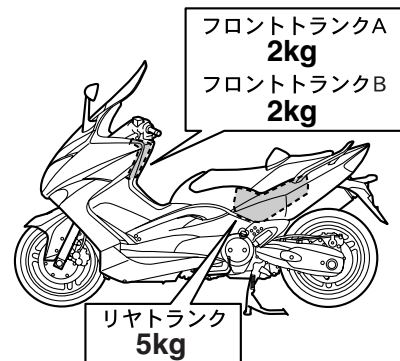
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物を積むときは



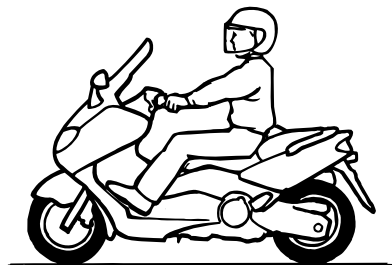
- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損した

安全運転のために

り、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。スロットルグリップを持って行くとおぼやかし事故の原因となります。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は法令により2人乗りはできません。

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。



急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15220

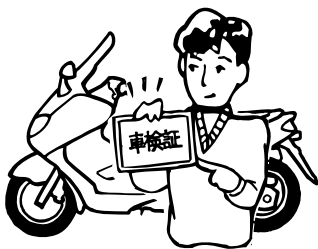
注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを
使用するよう、販売店へ依頼してくださ
い。規格が異なった部品を使用すると、故障
などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251 cm³ 以上）は、国
で定める継続検査を受けなければ使用でき
ません。また、初回の継続検査は新規登録日
から3年後に受け、2回目以降の継続検査は
その後2年ごとに受けます。

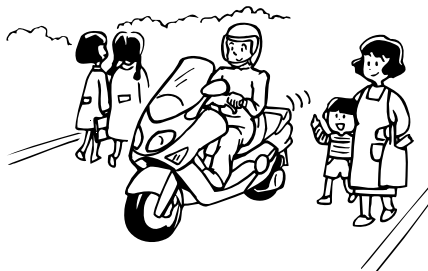
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受
けてください。



JUA27531

歩行者と他の車のために 他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の
動きに注意し、相手の立場について思いや
りの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで
走行してください。歩行者や自転車のそば
を通るときは、安全な距離を保つか徐行し
てください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ず
ハンドルロックをかけ、キーをお持ちくだ
さい。また、チェーンロックなどのサイク
ルロックも同時に使用することをおすす
めします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車して
ください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえ
ず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な
場所に駐車するときは、転倒や動き出しの
ないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するとき
は、車が停止してからハンドルを左に切っ
てください。



JWA12240

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの
間はマフラーやエンジンなどが熱くなっ
ています。触れるとヤケドをすることがあ
りますので、注意してください。また、物
などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジン
などに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になりま
す。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃え

安全運転のために

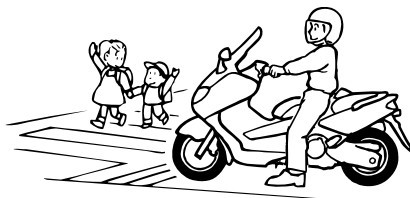
やすいものがある場所には駐車しないでください。

1 昼間はヘッドライトを下向きに

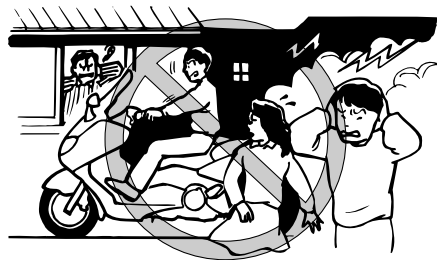
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



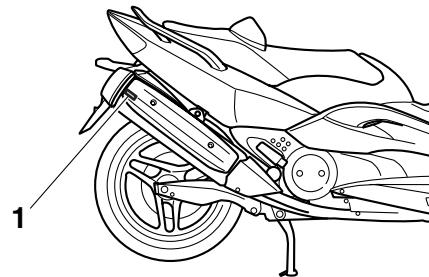
特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



JAU27650

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

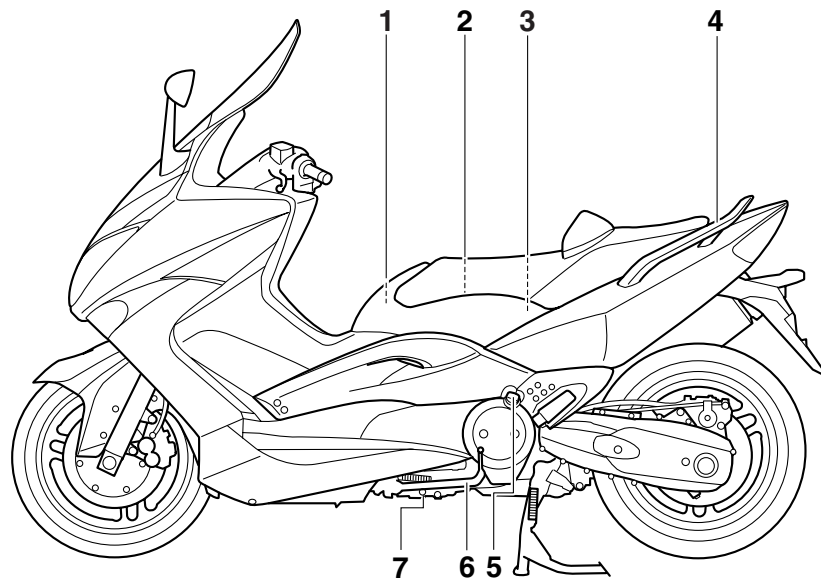
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの
廃棄処理をするときは、環境保護のためお買
い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10410

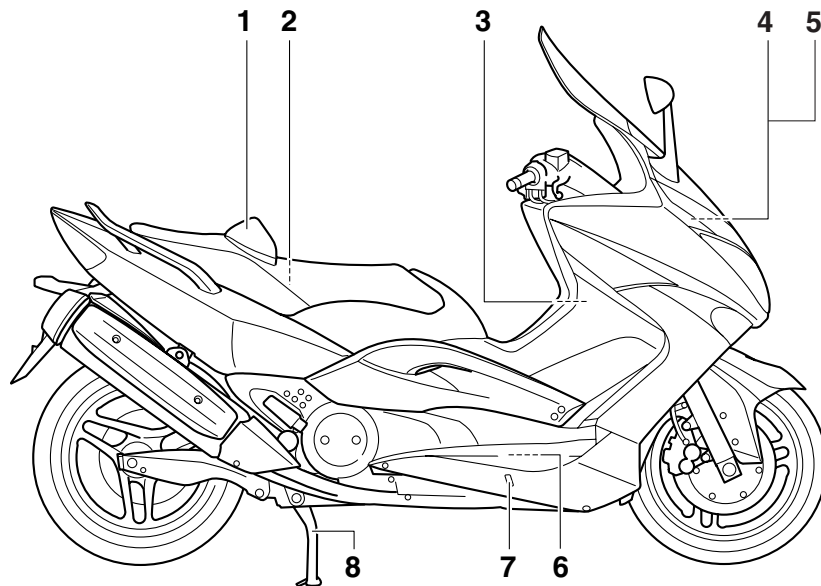
左側面

2



1. フューエルタンクキャップ (P3-13)
2. ヘルメットホルダー (P3-16)
3. リヤトランク (P3-17)
4. スタンディングハンドル (P3-20)
5. オイル注入口 (P6-5)
6. サイドスタンド (P3-20)
7. エンジンオイル点検窓 (P6-5)

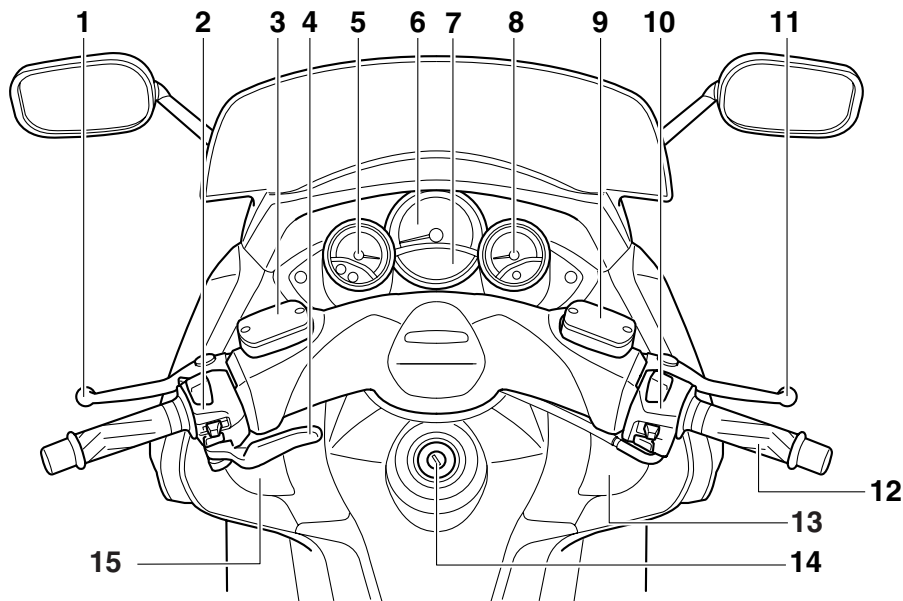
右側面



1. ライダーバックレスト (P3-15)
2. サービスツール (P6-2)
3. エアクリーナーエレメント (P6-9)
4. バッテリー (P6-15)
5. ヒューズ (P6-16)
6. リカバリータンク (P 6-8)
7. 冷却水点検窓 (P6-8)
8. メインスタンド

運転装置と計器類

2



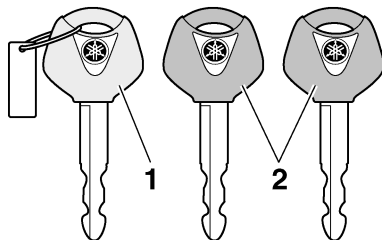
1. リヤブレーキレバー (P6-12)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-10)
3. リヤブレーキマスターシリンダー (P6-13)
4. リヤブレーキロックレバー (P 3-12/6-12)
5. 水温計 (P3-6)
6. スピードメーター (P3-5)
7. マルチファンクションディスプレイ (P3-6)
8. 燃料計 (P3-5)

9. フロントブレーキマスターシリンダー (P6-13)
10. ハンドルスイッチ (右) (P3-10)
11. フロントブレーキレバー (P6-12)
12. スロットルグリップ (P5-2)
13. フロントトランク B (P3-17)
14. メインスイッチ/ハンドルロック (P3-2)
15. フロントトランク A (P3-17)

キーの取り扱い

JAU33072

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）

2. サブキー（黒）

JCA12772

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキー

のIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含まれます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの

部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

各部の取り扱いと操作

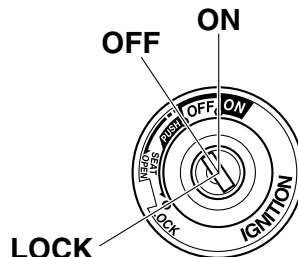
JAU26892

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-4 ページを参照してください。）

3

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11610

警告

走行中にメインスイッチを OFF の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11971

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

JAU10460

要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU34121

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。メインスイッチを OFF にするかサイドスタンドを使用するまで点灯し続けます。

JAU46010

OFF

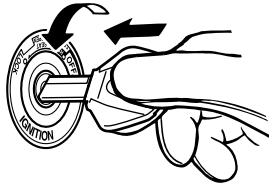
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10683

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



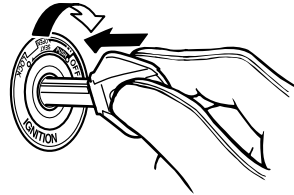
1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた



LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

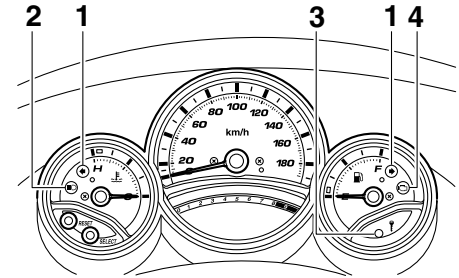
JWA11450



警告
走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

警告灯と表示灯

JAU11004



1. 方向指示器表示灯 “◁/▷”
2. ヘッドライト上向き表示灯 “≡〇”
3. イモビライザーシステム表示灯 “🔑”
4. エンジン警告灯 “🔧”

JAU11030

方向指示器表示灯 “◁/▷”
方向指示にあわせて点滅します。

JAU11080

ヘッドライト上向き表示灯 “≡〇”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU43023

エンジン警告灯 “🔧”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

要 点

- キーを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU27023

イモビライザーシステム表示灯 “”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。点灯しないときや点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車は、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンが運転中か停止中かにかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

JCA12750

注 意

自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が長く 5 回点滅した後、短く 2 回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含みます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあ

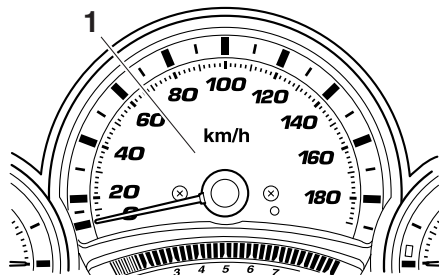
ります。

JAU11601

JAU44981

ださい。

スピードメーター

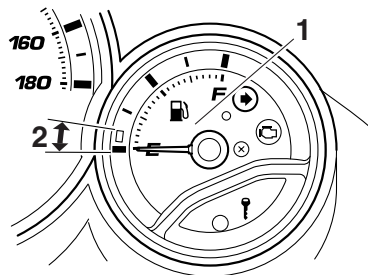


1. スピードメーター

車の速度を示します。

電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に戻ります。

燃料計



1. 燃料計 2. レッドゾーン

燃料計は、フューエルタンク内の燃料の量を示します。電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“E”（空）に戻ります。ガソリン残量が減少すると、指針は“E”の方へ移動します。指針がレッドゾーンを指したとき、残量はおおよそ 3.0 L です。早めに給油してください。

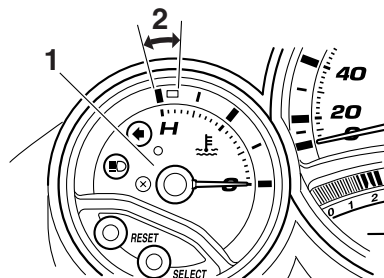
要 点

- 燃料計はメインスイッチがONのときに作動します。
- 残量の確認は、平坦な場所で車を垂直にし、メインスイッチを ON にして行ってく

各部の取り扱いと操作

JAU12182

水温計



1. 水温計
2. レッドゾーン

メインスイッチを ON にすると、冷却水の温度を示します。電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“C”に戻ります。冷却水の温度は天候やエンジンの負荷によって変化します。指針がレッドゾーンを指したら、エンジンを止めてリカバリータンクの冷却水量を点検してください。(6-8 ページ参照)

JCA11850

注意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

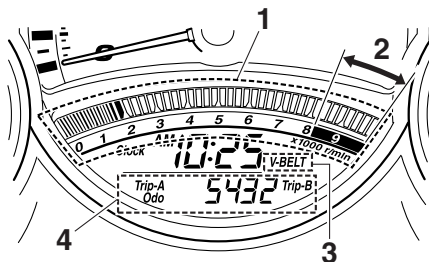
JAU44967

マルチファンクションディスプレイ

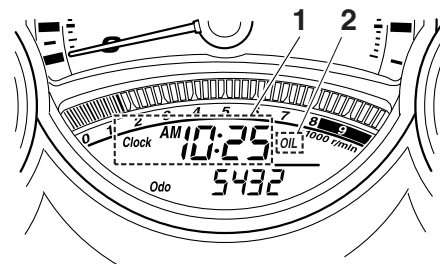
JWA12160



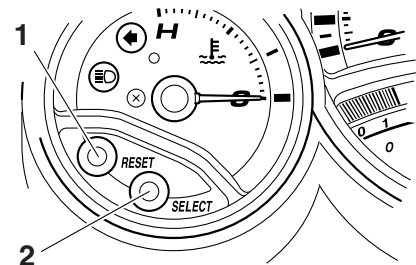
表示の切り替え、時刻調整などの操作は必ず、停車中に行ってください。



1. タコメーター
2. レッドゾーン
3. V ベルト交換表示 “V-BELT”
4. オドメーター／トリップメーター



1. 時計
2. エンジンオイル交換表示 “OIL”



1. “RESET” ボタン
2. “SELECT” ボタン

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- タコメーター（毎分のエンジン回転数を示します。）

- オドメーター（走行した総距離を表示します。）
- トリップメーター〈A / B〉（リセットしからの走行距離を積算します。）
- フューエルトリップメーター（フューエルタンクのガソリン残量が約 3.0 L になったからの走行距離を表示します。）
- エンジンオイルトリップメーター（前回エンジンオイルを交換してからの走行距離を表示します。）
- Vベルトトリップメーター（前回Vベルトを交換してからの走行距離を表示します。）
- 自己診断機能
- 時計
- エンジンオイル交換表示
- V ベルト交換表示

要 点

- “SELECT” ボタンや “RESET” ボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。
- メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、その後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。

タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

JCA12961

注 意

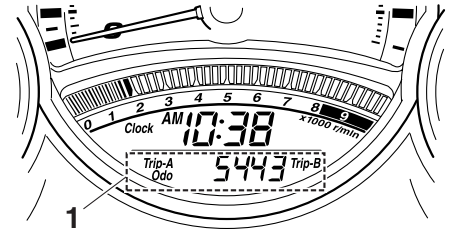
タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：8250r/min 以上

時計

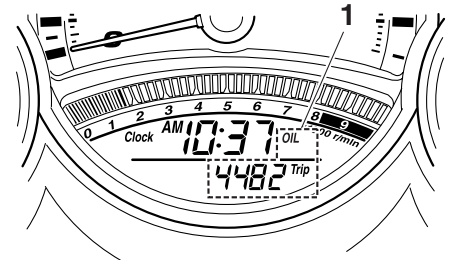
時刻調整のしかた

1. “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押します。
2. <時>の表示が点滅したら、“RESET” ボタンを押して<時>を合わせます。
3. “SELECT” ボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。
4. “RESET” ボタンを押して<分>を合わせます。
5. “SELECT” ボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

オドメーター／トリップメーター

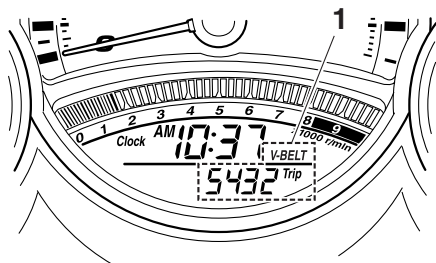


1. オドメーター／トリップメーター



1. エンジンオイルトリップメーター

各部の取り扱いと操作

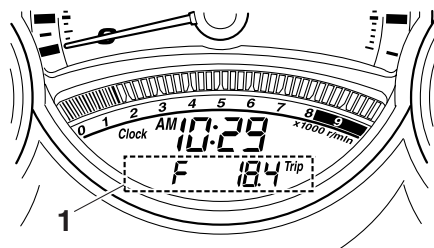


1. V ベルトトリップメーター

“SELECT” ボタンを押すごとに、オドメーターモード“Odo”とトリップメーターモード“Trip”が下記の順で切り替わります。
Odo → Trip-A → Trip-B → OIL Trip → V-BELT Trip → Odo

フューエルタンクのガソリンの残量が約3.0Lになると、トリップメーターの表示はフューエルトリップメーター“F Trip”に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このとき“SELECT”ボタンを押すと、オドメーターモード“Odo”とトリップメーターモード“Trip”は下記の順に切り替わります。

F Trip → Trip-A → Trip-B → OIL Trip → V-BELT Trip → Odo → F Trip



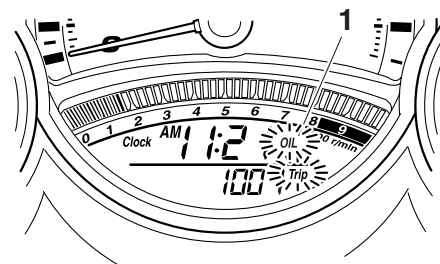
1. フューエルトリップメーター

トリップメーターのリセットは、“SELECT” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから“RESET” ボタンを1秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約5 km走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。

要 点

フューエルトリップメーター表示“F Trip”をリセットすると、再度フューエルトリップメーター表示“F Trip”に戻すことはできません。

エンジンオイル交換表示“OIL”



1. エンジンオイル交換表示“OIL”

エンジンオイルの交換時期を知らせます。初回は走行距離が1000kmになると、以降はリセット後6000km走行すると表示が点滅します。エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅したら早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

エンジンオイル交換後は必ずリセットしてください。エンジンオイル交換表示が表示される前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

リセットはメインスイッチをONにして、“SELECT” ボタンで“OIL Trip”モードに切り替えます。“OIL Trip”モードの状態でリセットボタン“RESET”を1秒以上押す

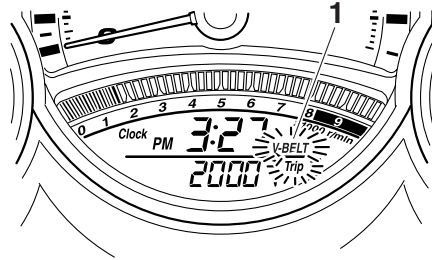
と、“OIL Trip” が点滅します。点滅中にリセットボタン“RESET”を3秒以上押すと、エンジンオイルトリップメーターがリセットされて走行距離がゼロになり、エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅から点灯に変わります。その後、“SELECT”ボタンで必要な表示モードに切り替えます。エンジンオイル交換表示の電気回路は以下の手順で点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを○にセットし、メインスイッチをONにします。
2. エンジンオイル交換表示が約2秒間表示され、その後消灯することを点検します。
3. 表示されないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

要 点

メインスタンドを立ててエンジンを始動したときにエンジンオイル交換表示が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

V ベルト交換表示 “V-BELT”



1. V ベルト交換表示 “V-BELT”

V ベルトの交換時期を知らせます。走行距離が20000 kmになるとVベルト交換表示“V-BELT”が点滅します。早めにヤマハ販売店にVベルトの交換を依頼してください。

V ベルト交換後は必ずリセットしてください。V ベルト交換表示が点滅する前にVベルト交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

リセットはメインスイッチをONにして、“SELECT”ボタンで“V-BELT Trip”モードに切り替えます。“V-BELT Trip”モードの状態ではリセットボタン“RESET”を1秒以上押すと、“V-BELT Trip”が点滅します。

点滅中にリセットボタン“RESET”を3秒以上押すと、V ベルトトリップメーターがリセットされて走行距離がゼロになり、V ベルト交換表示“V-BELT”が点滅から点灯に変わります。その後、“SELECT”ボタンで必要な表示モードに切り替えます。

V ベルト交換表示の電気回路は以下の手順で点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを○にセットし、メインスイッチをONにします。
2. V ベルト交換表示が約2秒間表示され、その後消灯することを点検します。
3. 表示されないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

自己診断機能

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。

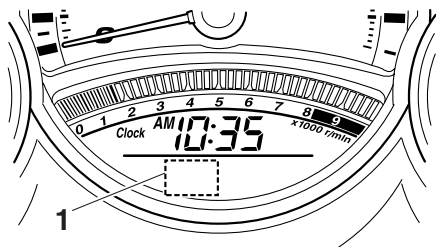
回路のいずれかが故障した場合、エンジン警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。

マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

JAU12331

JAU12348



1. エラーコード表示

JCA15950

注意

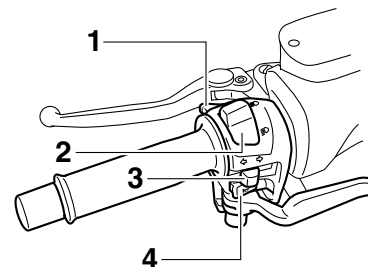
マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示している時は、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早くヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

盗難警報器（オプション）

この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。装着については、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

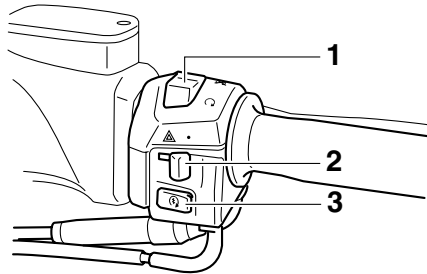
ハンドルスイッチ

左



1. パッシングライトスイッチ “PASS”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ / ”
3. 方向指示器スイッチ “ / ”
4. ホーンスイッチ “ ”

右



1. エンジンストップスイッチ “○/✕”
2. ハザードスイッチ “△”
3. スタータースイッチ “㊟”

JAU12360

パッシングライトスイッチ “PASS”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが ㊟ のときは、使用できません。

JAU12360

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “㊟/㊞”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

㊟(上向き)：遠くを照らします。

㊞(下向き)：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き “㊞” にしてください。

JAU12460

方向指示器スイッチ “↵ ↶”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

↶：右側の方向指示灯が点滅します。

↵：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11640

⚠ 警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11981

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12500

ホーンスイッチ “📢”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28181

エンジンストップスイッチ “✕/○”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は ○ にしておきます。

JWA12100

⚠ 警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12350

注 意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを ○ → ✕ → ○ にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

各部の取り扱いと操作

要 点

⌘にすると、エンジンは始動できません。

JAU12721

スタータースイッチ “⌘”

サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターモーターが回転しエンジンが始動します。

JCA11881

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU12765

ハザードスイッチ “△”

メインスイッチを ON にした状態で、スイッチを “△” にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11890

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードラン

プを長時間使用しないでください。

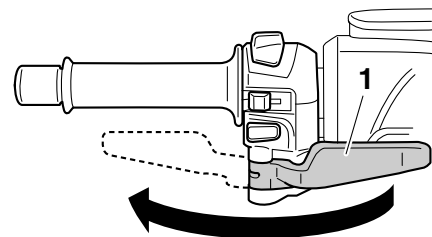
JAU12962

リヤブレーキロックレバー

エンジンを始動するとき、料金所などでの一時停車のとき、両手を離れた状態で車両を停車するときなどに使用します。

リヤブレーキロックレバーを左方向へ倒すと後輪がロックされます。

リヤブレーキロックレバーの解除は、リヤブレーキロックレバーを右方向へ戻します。



1. リヤブレーキロックレバー

JWA12500

警告

リヤブレーキロックレバーは走行中絶対に使用しないでください。走行中に作動させると安定性を損なう場合があります。

JCA13050

注 意

確実にリヤホイールの回転が止まった状態で、リヤブレーキロックレバーを使用してください。

要 点

リヤブレーキロックをよりきかせたいときは、リヤブレーキレバーを握りながらリヤブレーキロックレバーを使用してください。

JAU13175

フューエルタンクキャップ

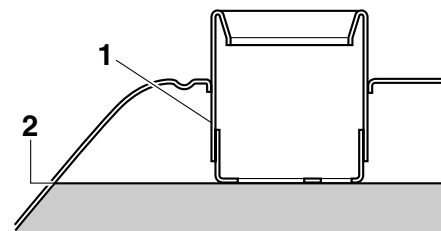
JWA12171

警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

に閉めてください。



1. フィラーチューブ

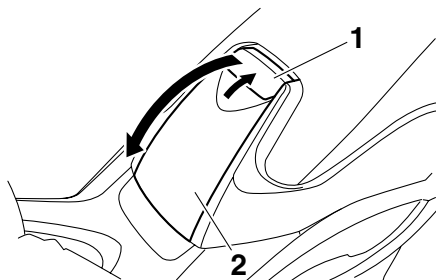
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. シート前方のレバーを引いて、リッドを開けます。

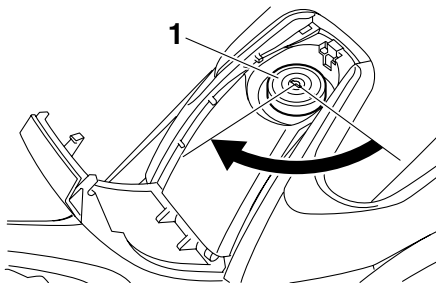
各部の取り扱いと操作

3



1. レバー
2. リッド

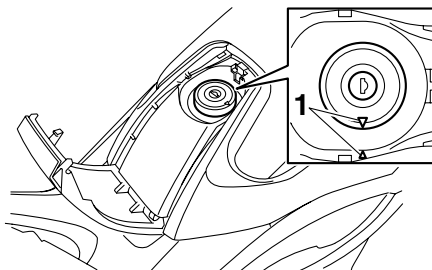
2. キーをロックに差し込み、時計方向に回します。ロックは解除され、フューエルタンクキャップを取り外すことができます。



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. 合マークを合わせ、フューエルタンクキャップを注入口に差し込み、キャップを押して取り付けます。



1. 合マーク
2. キーを反時計方向に回し、キーを抜き取ります。
3. リッドを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めない、キーを抜き取ることはできません。

燃料

JAU31460

JAU28331

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 15.0 L

JCA12511

注 意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

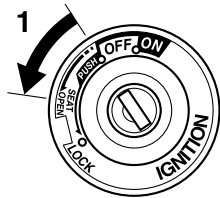
シート

シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. キーをメインスイッチに差し込み、反時計方向に回します。

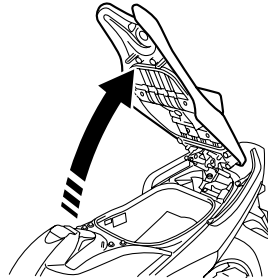
要 点

キーは押しこまないで回してください。



1. 開く
3. シートを持ち上げて開きます。

JAU48960



シートの閉めかた

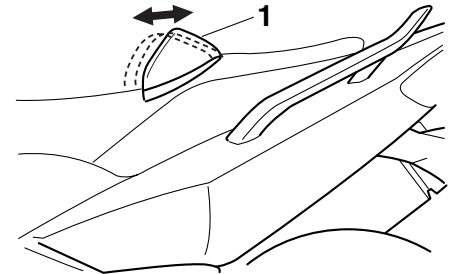
シートを降ろし、シート前部を押さえてロックします。

要 点

シートを降ろしたら確実にロックされているか確認してください。

可変式ライダーバックレスト

各自の体格や好みに合わせてライディングポジションが調整できる、可変式ライダーバックレストを装備しています。



1. ライダーバックレスト

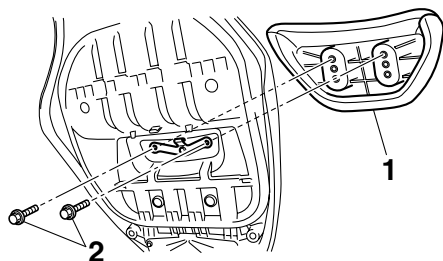
調整方法

調整範囲は 3 段階あります。シートを開け、シート裏側のボルトを外し、ライダーバックレストの取り付け位置を調整します。

各部の取り扱いと操作

JAU46260

JWA11650



1. ライダーバックレスト
2. ボルト

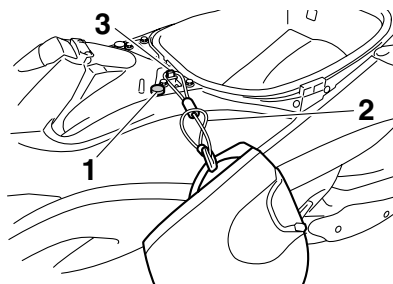
JWA12140



警告

シート調整後、左右のボルトを確実に締め付けてください。

ヘルメットホルダー



1. 網かけで示した部分
2. ヘルメットホールディングケーブル
3. ヘルメットホルダー

シート下にヘルメットホルダーがあります。シート裏側に収納されているヘルメットホールディングケーブルを使用します。ヘルメットをヘルメットホルダーに掛ける時、網かけで示した部分にヘルメットホールディングケーブルがかからないようにして、シートを閉めてください。

要 点

シートがロックされていることを確認してください。



警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JCA12450

注意

ヘルメットホールディングケーブルの両端をヘルメットホルダーに掛けるなどの方法で使用する、トランク内に雨水やホコリなどが入ることがあります。

JAU28520

JAU44993

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

トランク

JWA12220

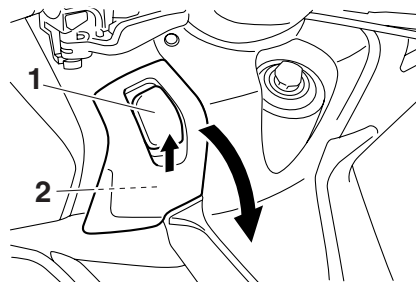
⚠ 警告

以下の荷重制限を越えないでください。

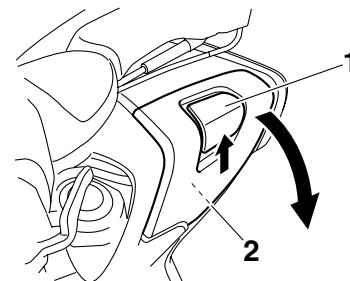
- フロントトランク A: 2 kg
- フロントトランク B: 2 kg
- リヤトランク: 5 kg

フロントトランク A / B

レバーを上スライドさせ、手前に引いて開けます。

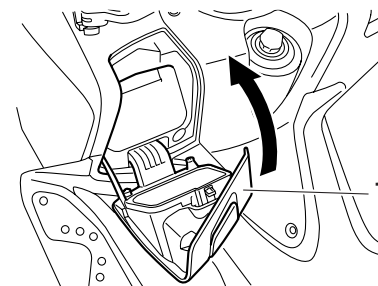


1. レバー
2. フロントトランク A



1. レバー
2. フロントトランク B

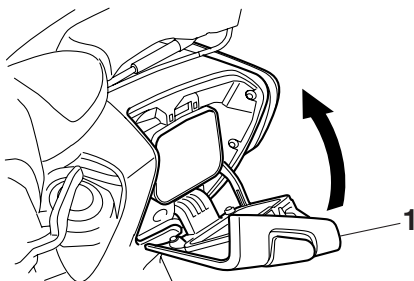
閉めるときは、リッドを元の位置に戻します。



1. リッド

各部の取り扱いと操作

3

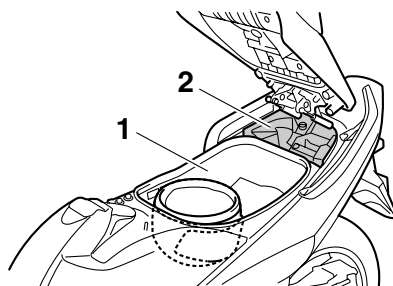


1. リッド

リヤトランク

シートの下にリヤトランクがあります。(3-15 ページ参照) ヘルメットを収納するときは、ヘルメットの前部を左側に向けて逆さに置きます。

シートを開けるとトランク照明灯が点灯します。トランク照明灯はメインスイッチに関係なく点灯し、シートが開いてる間は点灯します。



1. リヤトランク
2. 網かけで示した部分

JCA12581

注意

- シートは長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。
- 洗車をするときに中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物はいれないでください。
- トランク内は直射日光などで温度が高くな

ります。熱の影響を受けやすい物はいれないでください。

JCA16091

注意

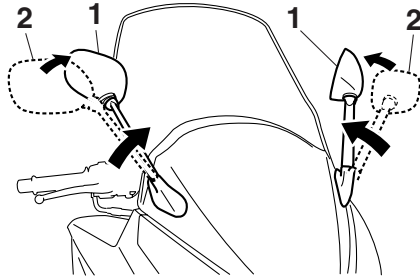
網かけで示した部分は、トランクではありません。シートヒンジの損傷を防ぐために、この場所に物を置かないでください。

要点

- リヤトランクにはフルフェイスヘルメットが収納可能ですが、形状によっては入らないものもあります。
- シートを降ろしたら、シートがロックされているか確認してください。
- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- キーをトランク内に入れたままシートを閉じると、ロックされ開けられなくなります。注意してください。

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 駐車するときの位置
2. 乗車するときの位置

JAU44970



警告

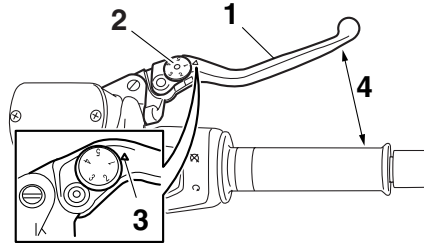
乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

JWA14371

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらグリップアジャスターを回します。

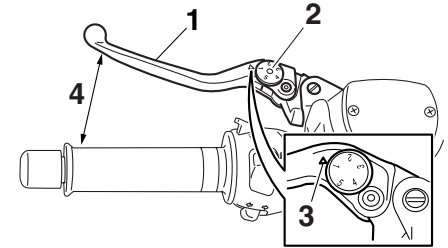
フロントブレーキ



1. フロントブレーキレバー
2. グリップアジャスター
3. “Δ” マーク
4. 握り幅

JAU46200

リヤブレーキ



1. リヤブレーキレバー
2. グリップアジャスター
3. “Δ” マーク
4. 握り幅

要 点

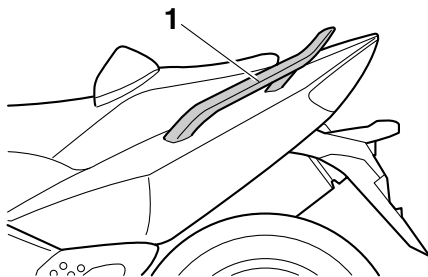
アジャスターの数字と“Δ”マークを、必ず合わせてください。

各部の取り扱いと操作

JAU29910

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てるときに右手で持ちます。



1. スタンディングハンドル

JAU15303

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては3-20ページを参照してください。)

JWA11530

⚠ 警 告

サイドスタンドをおろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、以下のように定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU45051

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む)には次の機能があります。

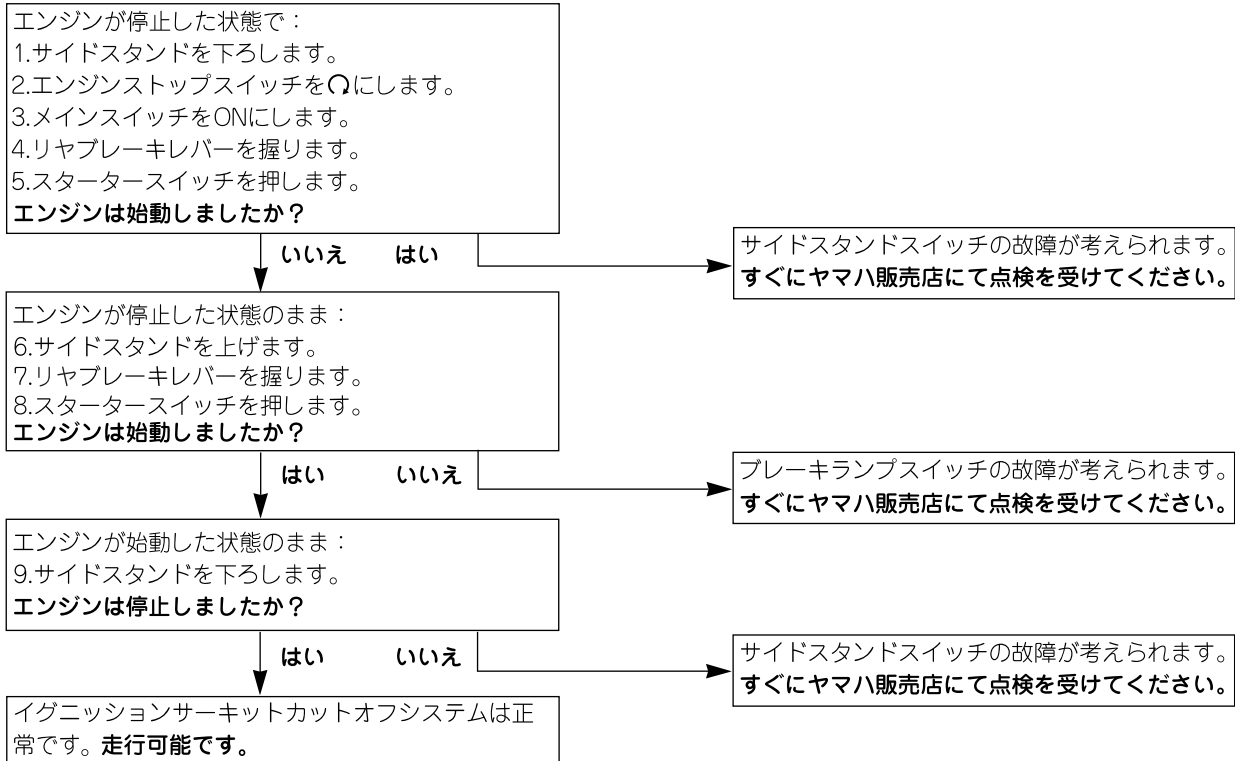
- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11540

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で日常点検を行うことが義務づけられています。

運転する前に必ず実施してください。

JWA12031

⚠ 警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じて買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11732

⚠ 警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU48020

要 点

この車は、メインスイッチが“ON”のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、マルチファンクションディスプレイにエラーコード“30”を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦“OFF”にして、再度“ON”にするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード“30”も表示されなくなります。

エンジン始動

注 意

初めて車両を運転する前に、5-3 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要 点

サイドスタンドをおろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

JAU16595

JCA11920

⚠ 警 告

- エンジンを始動するときには、3-20 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。

JWA11561

1. メインスタンドを立てます。
2. リヤブレーキロックレバーで後輪をロックします。
3. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが○にセットされていることを確認します。

4. スロットルを完全に閉じます。
5. リヤブレーキレバーをしっかり握り、スタータースイッチを押して、エンジンを始動させます。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA15991

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ふかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

発進

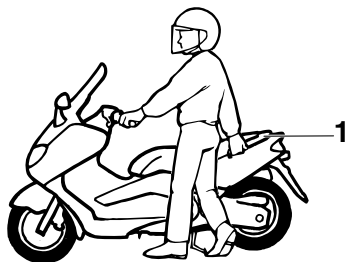
JAU44150

JWA12260

⚠ 警告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



1. スタンディングハンドル

⚠ 警告

JWA12270

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り

出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. リヤブレーキロックレバーを解除します。
4. 方向指示器スイッチを右側に入れ発進の合図をします。
5. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12280

⚠ 警告

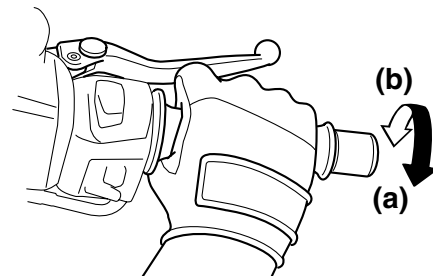
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

6. 方向指示器を消灯します。

加速と減速

JAU16780

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉めたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JCA12680

注意

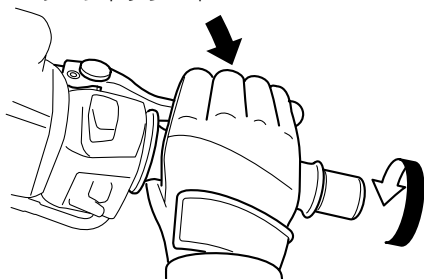
上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

JAU16793

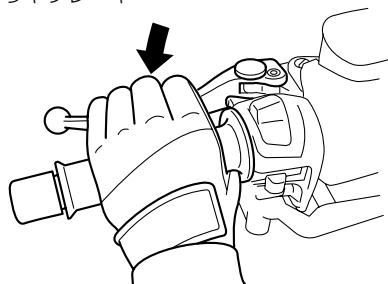
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

フロントブレーキ



リヤブレーキ



JWA11572



警告

- 急なブレーキは避けてください（特にどち

らか一方に傾いている時）。横すべりや転倒の原因となります。

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効が悪くなるおそれがあります。

JAU31470

ならし運転

JAU27660

ならし運転のしかた

初回1か月目（または1000km 走行までの点検までは、ならし運転をしてください。ならし運転中はエンジン回転数を4000r/min以下で走行してください。また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17213

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11581

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29835

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、運転する前に実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12054



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ・ 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - ・ エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - ・ 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - ・ 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ・ 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

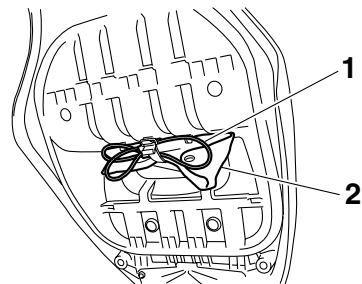
- 点検整備に使用する工具は、必要に応じて

お買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU17391



1. ヘルメットホールディングケーブル
2. サービスツール

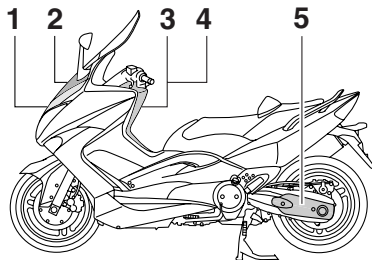
サービスツールはシートの下側にあります。
(3-15 ページ参照)

6

カバーの取り外し、取り付け

JAU18751

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



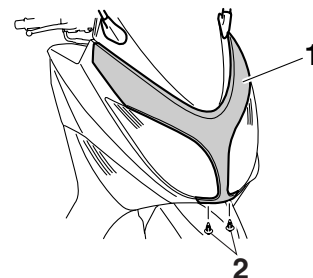
1. カバー A
2. カバー B
3. カバー C
4. カバー D
5. カバー E

JAU46160

カバー A

カバーの取り外しかた

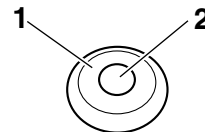
1. クイックファスナーを取り外します。



1. カバー A
2. クイックファスナー

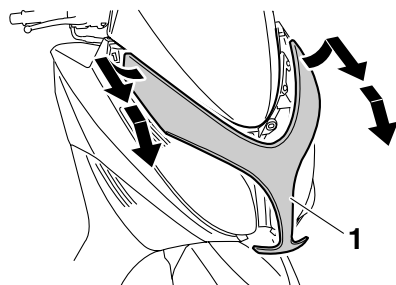
要 点

クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。



1. クイックファスナー
2. センターピン

2. 図のように左右のカバー上部を上向きに引き出しながら取り外してから、下向きに取り外します。



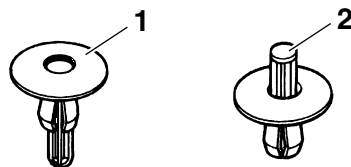
1. カバー A

カバーの取り付けかた

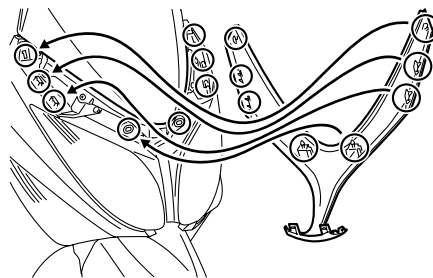
カバーを元の位置に取り付け、クイックファスナーを取り付けます。

要 点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。



1. クイックファスナー（取り外した状態）
2. クイックファスナー（取り付け前）

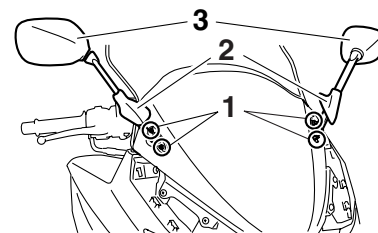


カバー B

カバーの取り外しかた

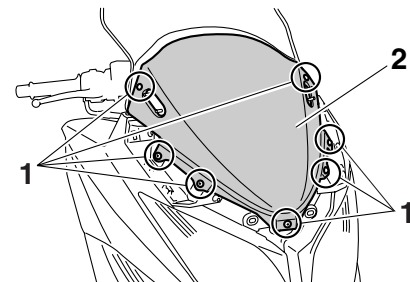
1. カバー A を取り外します。
2. 左右のバックミラーのラバーカバーを上向きに引き上げます。その後、ナットを外し、左右のバックミラーを取り外しま

す。



1. ナット
2. ラバーカバー
3. バックミラー

3. スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー B

点検整備

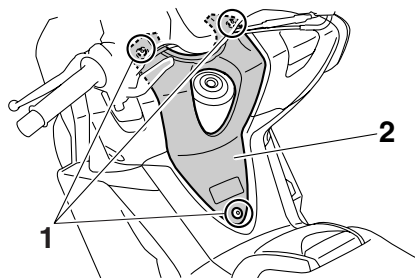
カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。
2. 左右のバックミラーを取り付け、ナットを締め付けます。その後、左右のバックミラーのラバーカバーを元の位置に取り付けます。
3. カバー A を取り付けます。

カバー C

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー C

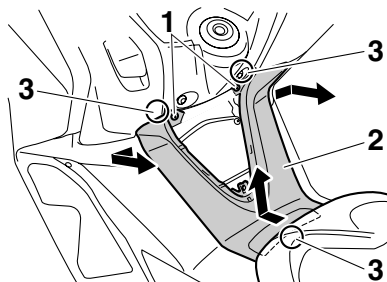
カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。

カバー D

カバーの取り外しかた

1. カバー C を取り外します。
2. スクリューを外し、ツメの方向に注意しながらカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー D
3. ツメ

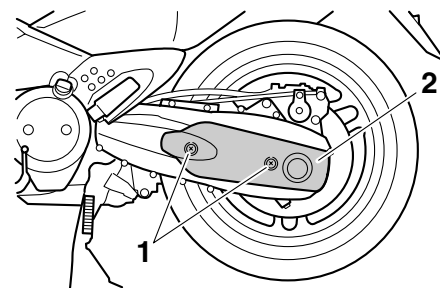
カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。
2. カバー C を取り付けます。

カバー E

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー E

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。

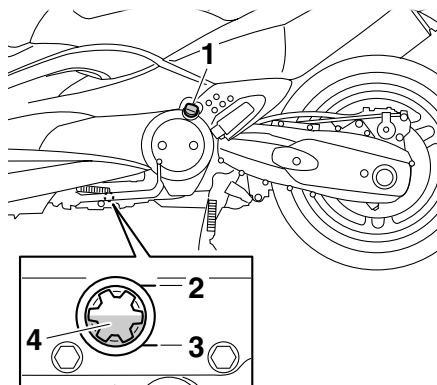
JAU30402

エンジンオイル エンジンオイル量の点検

要 点

エンジンオイル量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

1. 平坦な場所でメインスタンドを立てます。
2. エンジンを始動し、2 分間アイドリング運転します。
3. エンジンを止めて 2 分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



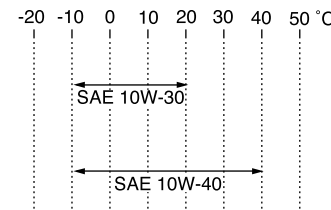
1. オイル注入口
 2. フルレベル
 3. ロアレベル
 4. エンジンオイル点検窓
4. オイル量がロアレベル以下のときはエンジンオイル注入口から補給します。

<推奨エンジンオイル>

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル ヤマルーブプレミアム	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル ヤマルーブスポーツ	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル ヤマルーブベーシック	10W-30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって下

表を参考にして使いわけてください。



JAU46210

エンジンオイルの交換時期

初 回：

1 か月点検時または 1000km 時

2 回目以降：

6000km 走行毎または 1 年毎

定期交換時オイル量：

オイルフィルターカートリッジ無

交換時：2.80 L

オイルフィルターカートリッジ交

換時：2.90 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

点検整備

オイルフィルターの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000km 時

2 回目以降：

18000km 走行毎

JWA11860

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12260

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

要 点

- エンジンオイル交換表示“OIL”は回路の確認のため、走行距離に関係なくメインスイッチをONにすると約2秒間表示されま

す。

- エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅したときは、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、リセット操作をしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（3-6 ページ参照）

JAU36420

チェーンドライブオイル チェーンドライブオイルの交換時期

初回：

10000km 走行時

2 回目以降：

10000km 走行毎

定期交換時オイル量：

0.70 L

推奨オイル：

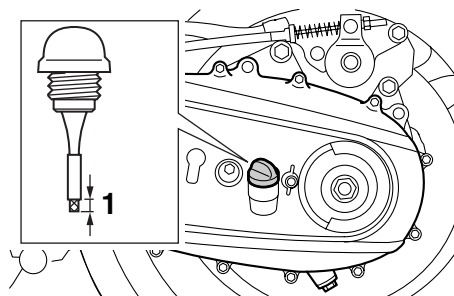
ヤマハドライブシャフトオイル

チェーンドライブオイル量の点検

1. カバーEを外します。（6-2 ページ参照）
2. チェーンドライブオイルが、オイルレベルゲージの規定範囲内にあるかを点検します。

JAU30690

JAU44190



1. 規定オイル量

要 点

オイルレベルゲージはねじ込まないで点検します。

オイルが不足しているときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

3. オイルレベルゲージを確実に締め付け、カバーEを取り付けます。

JCA12460

注 意

オイルレベルゲージには O リングが付いていますので、紛失しないよう注意してください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

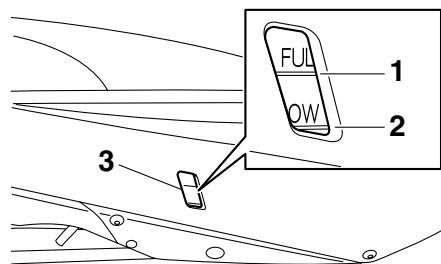
冷却水

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

フットボード右下の点検窓から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. フルレベル
2. ロアレベル
3. 冷却水点検窓

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

冷却水のつくりかた

ヤマハ純正ロングライフクーラントと水道

JAU20070

水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JAU30790



JWA11880

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けて下さい。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12110

注意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分

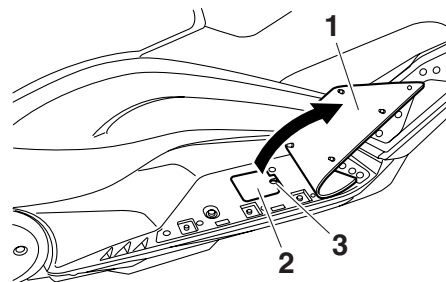
の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30900

冷却水の補充

フットボード右下の点検窓からリカバリータンク内の冷却水量を点検します。液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

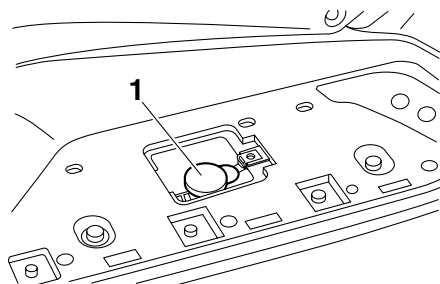
1. 右のフットボードラバーを外し、スクリューを外してリカバリータンクカバーを取り外します。



1. フットボードラバー
2. リカバリータンクカバー
3. スクリュー

2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。

JAU45021



1. リカバリータンクキャップ
3. リカバリータンクキャップ、リカバリータンクカバー、フットボードラバーを取り付けます。

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12120

注 意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エアクリーナーエレメントの交換

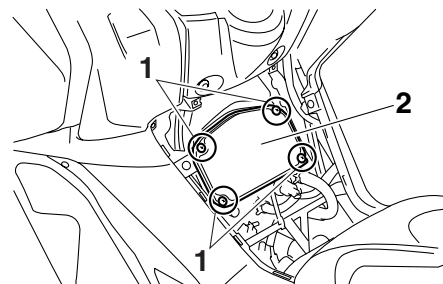
エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

JCA11950

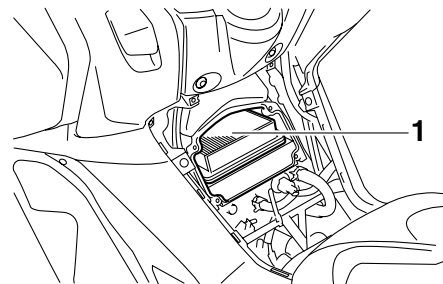
注 意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- エアクリーナーエレメントを取り付けなままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。

1. カバー C とカバー D を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー
3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

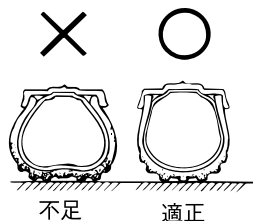


1. エアクリーナーエレメント
4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付

- け、スクリューを締め付けます。
6. カバー D とカバー C を取り付けます。

タイヤ 空気圧

JAU31024



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

この車はチューブレスタイヤを装着してあります。

タイヤ空気圧（冷間時）：

1 名乗車：

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2 名乗車：

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

280 kPa (2.80 kgf/cm²)

高速走行（1 名乗車）：

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

高速走行（2 名乗車）：

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

280 kPa (2.80 kgf/cm²)

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタ

イヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

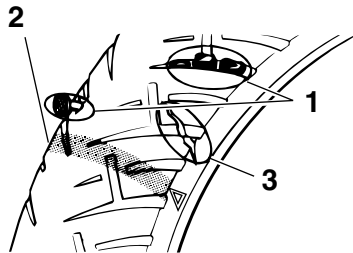
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28641

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28700

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28773

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6 mm、後輪 2.0 mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11912



警告

- **タイヤを交換するときは必ず、指定タイヤ**

を使用してください。指定タイヤ以外のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので、使用しないでください。

- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：

120/70R15 M/C 56H

後輪：

160/60R15 M/C 67H

指定タイヤ：

前輪：

DUNLOP/GPR-100F

BRIDGESTONE/BT011F

後輪：

DUNLOP/GPR-100L

BRIDGESTONE/BT012R

JAU29160

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。

JWA11750

⚠ 警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

⚠ 警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU34990

リヤブレーキロックのきき具合

リヤブレーキロックをかけ、車を押してリヤブレーキロックのききが充分であるか点検します。リヤブレーキロックのききが不充分なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

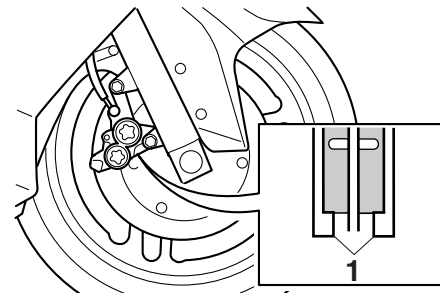
JAU46170

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら交換してください。



1. インジケーター

<リヤブレーキ>

リヤブレーキパッドの摩耗の点検は、ヤマハ販売店でお願いします。

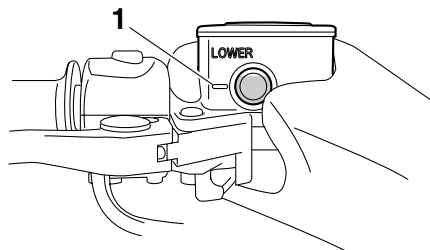
JAU44230

JWA12150

JAU31193

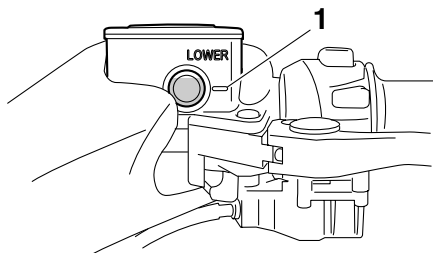
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ロアレベル

<リヤブレーキ>



1. ロアレベル

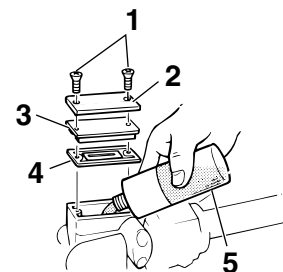
マスターシリンダーキャップ上面を水平にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。



1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム
5. ブレーキ液

点検整備

指定ブレーキ液：
ヤマハ純正ブレーキフルード
BF - 4 (DOT - 4)

JWA12071

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年毎に交換してください。

JCA12330

注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、タイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム

類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU28620

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28761

JWA11810



警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12141

注意

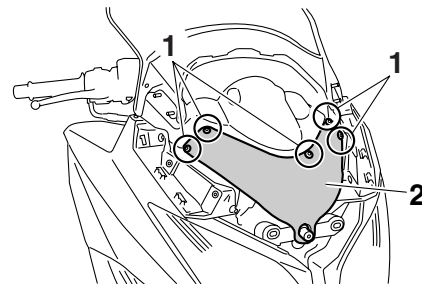
- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間で使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU46180

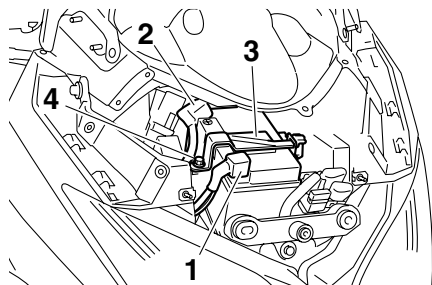
バッテリーの取り外し

1. カバー A とカバー B を取り外します。
(6-2 ページ参照)

2. クイックファスナーを外して、ラバーカバーを取り外します。



1. クイックファスナー
2. ラバーカバー
3. ボルトを外してプレートを取り外します。
4. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. プレート
4. ボルト

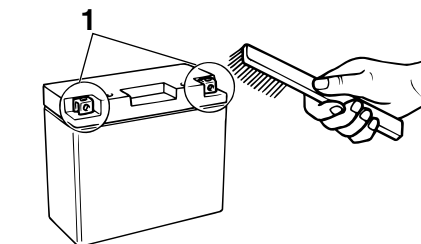
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29410

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

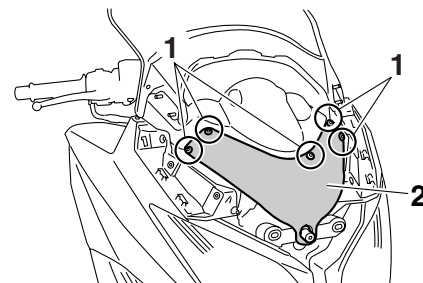


1. ターミナル

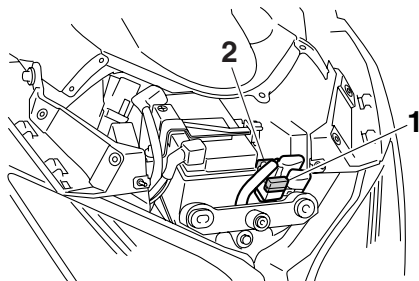
ヒューズ交換

メインヒューズ、系統別ヒューズはカバーBの下にあります。(6-2 ページ参照)

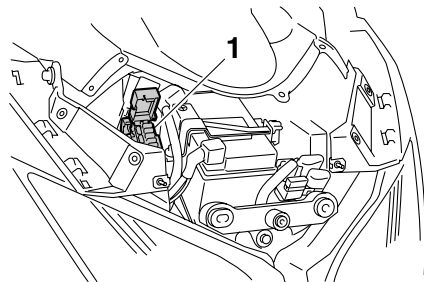
1. カバーA とカバー B を取り外します。
(6-2 ページ参照)
2. クイックファスナーを外して、ラバーカバーを取り外します。



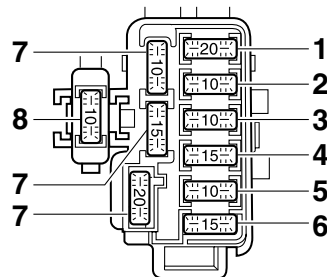
1. クイックファスナー
2. ラバーカバー



- 1. メインヒューズ
- 2. スペアメインヒューズ



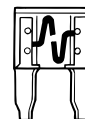
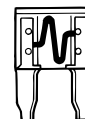
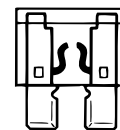
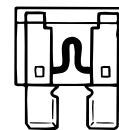
- 1. 系統別ヒューズボックス



- 1. ヘッドライトヒューズ
- 2. イグニッションヒューズ
- 3. バックアップヒューズ
- 4. ファンヒューズ
- 5. フューエルインジェクションヒューズ
- 6. シグナルヒューズ
- 7. スペアヒューズ
- 8. ハザードヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

- 1. メインスイッチを OFF にします。
- 2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：

メイン：

30.0 A

ヘッドライト：

20.0 A

シグナル：

15.0 A

イグニッション：

10.0 A

ラジエーターファン：

15.0 A

ハザード：

10.0 A

フューエルインジェクション：

10.0 A

バックアップ：

10.0 A

JCA12861

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ

以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29441

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを開始し、ヘッドライトが良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-16ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（「製品仕様」のページを参照）してください。

JCA12061

注意

電球は、指定されているワット数・規格のものを使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU46192

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？また、エンジンストップスイッチは ○ になっていますか？

2. ガソリンはありますか？

燃料計にてガソリン量を確認してください。

燃料計の指針が“E”のときはフューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？

4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？

5. サイドスタンドを使用していないですか？

以上のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？また、エンジンストップスイッチは ○ になっていますか？

2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？

3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・

- ヒューズ切れが考えられます。6-16 ページを参照してヒューズを点検してください。

- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で点検してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？

2. 各スイッチを作動させていますか？

3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・

- ヒューズ切れが考えられます。6-16 ページを参照してヒューズを点検してください。

- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」の

ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12061

注意

電球は、指定されているワット数・規格のものを使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の指針が“E”のときはフューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示“V-BELT”が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

JCA12530

注意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

推奨エンジンオイル：
ヤマルーブプレミアム
ヤマルーブスポーツ
ヤマルーブベーシック

交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

JCA12310

注意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

JAU35122

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

JCA13082

注意

お車によってはマット塗装（ツヤ消し塗装）が施されています。お車の手入れの前にヤマハ販売店で、どのようなアフターケア用品を使用したら良いか、ご相談することをおすすめします。また、マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

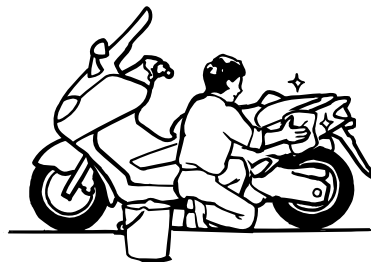
- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより、外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。
- マット塗装部分の補修が必要な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：
ユニコンカークリーム



JWA11930

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにして

ください。

- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12213

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入っ

お車の手入れ

たワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27990

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11950

⚠ 警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12220

注 意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを

走った後は、すぐに水洗いをしてください。

JAU28050

ウインドスクリーンの取り扱い 使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けにあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドスクリーンの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11980

警告

ウインドスクリーンとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12230

注意

- ウインドスクリーンにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れ等の原因になりますので注意してください。
- ヒビ割れのあるウインドスクリーンは使用しないでください。

JAU35910

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13110

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
 - バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28081

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28111

ヤマルーブプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

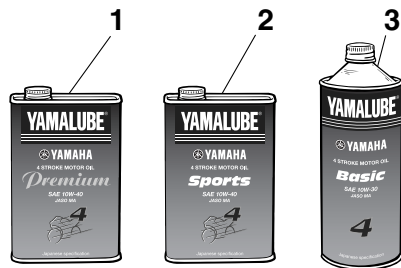
ヤマルーブスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

ヤマルーブベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。

お車の手入れ



1. ヤマルーブプレミアム
2. ヤマルーブスポーツ
3. ヤマルーブベーシック

JAU28170

ME-7

水冷専用：過酷な状況でも安定した冷却効果と優れた防錆、防食力のある不凍液です。



ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



JAU28200

JAU28260

ドライブシャフトオイル

潤滑条件が過酷なドライブシャフトを保護し、円滑な作動を長時間維持するオイルです。

TMAX では、チェーンドライブオイルとして使用します。



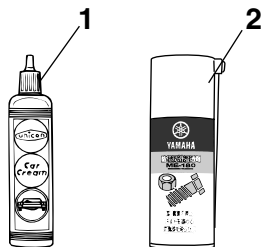
JAU28360

ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ME-180（防錆潤滑剤）

防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。



1. ユニコンカークリーム
2. ME-180 (防錆潤滑剤)

製品仕様

寸法：	乗車定員：	クラッチ形式：
全長：	2 名	湿式多板オートマチック
2195 mm		ミッション・チェンジ方式：
全幅：	性能：	Vベルト式無段変速
775 mm	定地燃費（国土交通省届出値）：	始動方式：
全高：	25.0 km/L/60 km/h	セル式
1445 mm	最小回転半径：	車体：
シート高：	2800 mm	フレーム形式：
800 mm	最高出力：	ダイヤモンド
軸間距離：	28 kW@7000 r/min	キャスト：
1580 mm	(38 PS@7000 r/min)	25.00°
最低地上高：	最大トルク：	トレール：
125 mm	44 Nm@5500 r/min	92.0 mm
	(4.5 kgf-m@5500 r/min)	ステアリングシステム：
重量：	エンジン：	ハンドル切れ角（左）：
車両重量：	原動機種類：	39.0°
222 kg	4 ストローク水冷 DOHC	ハンドル切れ角（右）：
分布荷重（前）：	気筒数・配列：	39.0°
104 kg	直列 2 気筒横置	燃料：
分布荷重（後）：	総排気量：	フューエルタンク容量：
118 kg	499 cm ³	15.0 L
車両総重量：	内径 × 行程：	予備容量：
332 kg	66.0 × 73.0 mm	3.0 L
分布荷重（前）：	圧縮比：	フロントブレーキ：
137 kg	11.00 : 1	ブレーキ形式：
分布荷重（後）：	エアフィルターエレメント：	油圧式ダブルディスクブレーキ
195 kg	湿式ろ紙	

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：

油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式：

種類（前）：

テレスコピック

種類（後）：

スイングアーム

緩衝方式：

ショックアブソーバータイプ（前）：

コイルスプリング / オイルダンパー

ショックアブソーバータイプ（後）：

コイルスプリング / ガスオイルダンパー

フロントタイヤ：

種類：

チューブレス

サイズ：

120/70R15 M/C 56H

メーカー / 銘柄：

DUNLOP/GPR-100F

メーカー / 銘柄：

BRIDGESTONE/BT011F

リヤタイヤ：

種類：

チューブレス

サイズ：

160/60R15 M/C 67H

メーカー / 銘柄：

DUNLOP/GPR-100L

メーカー / 銘柄：

BRIDGESTONE/BT012R

トランスミッション：

1 次減速比：

52/32 × 36/22 (2.659)

2 次減速比：

41/25 × 40/29 (2.262)

変速比：

2.025-0.728 : 1

エレクトリカル：

点火方式：

TCI（デジタル進角）

ヘッドライト：

ヘッドライト球：

ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数：

ヘッドライト：

12 V, 60 W/55 W × 1

ヘッドライト：

12 V, 55 W × 1

テール / ブレーキランプ：

12 V, 5.0 W/21.0 W × 1

方向指示灯（前）：

12 V, 21.0 W × 2

方向指示灯（後）：

12 V, 21.0 W × 2

番号灯：

12 V, 5.0 W × 1

メーター灯：

LED

マーカーランプ：

12 V, 5.0 W × 2

パイロットランプワット数 x 個数：

方向指示器表示灯：

LED x 2

ヘッドライト上向き表示灯：

LED

エンジン警告灯：

LED

イモビライザーシステム表示灯：

LED

エンジンオイル：

推奨オイル：

ヤマルーブ プレミアム、スポーツ、
ベーシック

製品仕様

エンジンオイル量:

オイルフィルターカートリッジ無交換

時:

2.80 L

オイルフィルターカートリッジ

交換時:

2.90 L

チェーンドライブオイル:

オイル量:

0.70 L

クーリングシステム:

リザーブタンク容量

(FULL レベル):

0.25 L

冷却水総容量:

1.48 L

ブレーキレバーとブレーキペダル:

スロットルケーブル遊び:

3.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ:

パッド厚さ (内側):

4.0 mm

使用限度:

0.5 mm

パッド厚さ (外側):

4.0 mm

使用限度:

0.5 mm

指定ブレーキフルード:

BF-4 (DOT 4)

リヤディスクブレーキ:

パッド厚さ (内側):

8.0 mm

使用限度:

0.8 mm

パッド厚さ (外側):

8.0 mm

使用限度:

0.8 mm

指定ブレーキフルード:

BF-4 (DOT 4)

ホイールトラベル:

ホイールトラベル (前):

120.0 mm

ホイールトラベル (後):

116.0 mm

タイヤ空気圧 (冷間時):

前輪 (1名乗車):

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪 (1名乗車):

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

前輪 (2名乗車):

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪 (2名乗車):

280 kPa (2.80 kgf/cm²)

高速走行:

前輪 (1名乗車):

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪 (1名乗車):

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

前輪 (2名乗車):

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪 (2名乗車):

280 kPa (2.80 kgf/cm²)

バッテリー:

バッテリー型式:

YTZ10S

バッテリー容量:

12 V, 8.6 Ah

点火タイミング:

点火時期 (B. T. D. C.):

10.0° / 1200 r/min

スパークプラグ:

メーカー / 型式:

NGK/CR7E

プラグギャップ:

0.7–0.8 mm

ヒューズ容量：

メイン：

30.0 A

ヘッドライト：

20.0 A

シグナル：

15.0 A

イグニッション：

10.0 A

ラジエターファン：

15.0 A

ハザード：

10.0 A

フューエルインジェクション：

10.0 A

バックアップ：

10.0 A

JAU36640

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

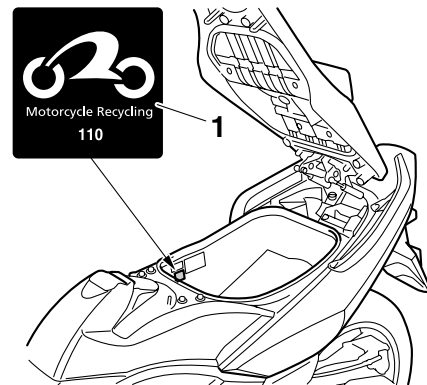
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28391

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XP500 TMAX サービスマニュアル
部品番号：

QQS-CLT-000-4B5

JAU28450

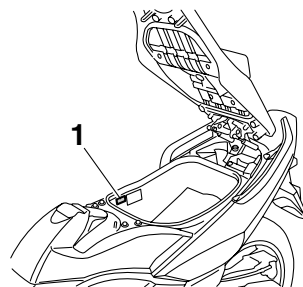
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、リヤトランク右側に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

XP500 TMAX

モデルラベル

製品仕様を示しています。



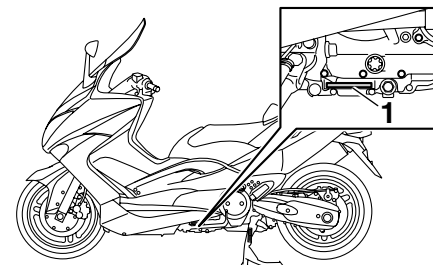
カラーリングを示しています。



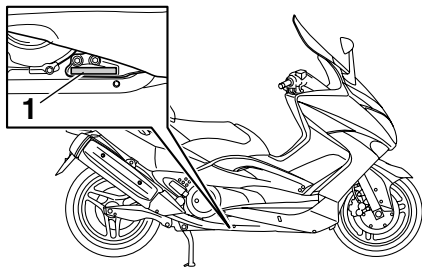
車台番号、原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 原動機番号



1. 車台番号

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-102-4B5

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2009.09-0.3 × 1 
(J)